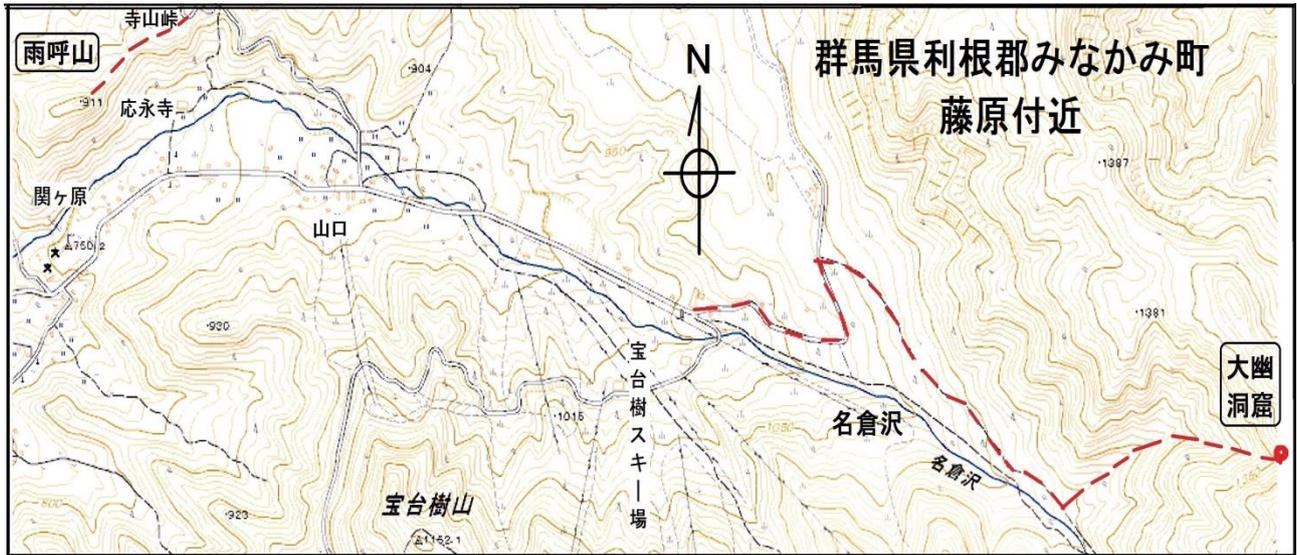


スノーシューハイク大幽の洞窟 雨呼山

(報告)Fj

◎山行日：2017年2月22～23日

◎メンバーAka(L)、Tsuk(SL)、Oh、Nish、Hagi、Fj



湯檜曾から東へ少し行くと宝台樹スキー場があり、さらに進むと雪で進めなくなる。車を置いてスノーシューに履き替え歩き出す。名倉沢沿いのなだらかな谷筋を楽しみながら軽快に1時間も歩くと徐々に傾斜がきつくなる。このままの道を行くと上州武尊山へ北西側から上り詰めるのだそうだ。我々は左側の尾根の中腹にある大幽の洞窟目指して登る。きつくなった斜面を喘ぎながら先行パーティーをトレースして登ること1時間、洞窟らしきが見え、入り口にストックが立て掛けてあるが人影は見えなかった。雪崩れそうな急斜面を10m位登ると横広の入口に着く。穴の奥に2人の男性が休んでいた。道を間違えて尾根の上の方まで行ってきたようだ。



(大幽の洞窟 入口上部の褶曲岩板)



(洞窟内の見事な氷筍)

中を見渡すと40センチ位の氷筍が一本、あれがそうか・・・、少し期待外れのような気がしていると、中の先人から入ってくるようにと声がかかる。頭が悶えそうな天井に気を付けながら入ると、“ワッ”と驚いた。奥の深みに“あるわあるわ”その数200本位か、70～80センチもあろう氷の竹の子、氷筍であ

る。天井には水蒸気が結晶になり岩についている。樹霜ならぬ岩霜か。少々幽玄ではあったが一見の価値あり。いやいや大いに幽玄だから大幽なのかも。

入口上部は垂直の為雪がついておらず、安山岩の溶岩は水平状の板状節理で圧縮力が働いた地殻変動で盛り上がるようにアーチ状に褶曲し細かくひび割れが見られる。地下のどこかが褶曲のため空隙が出来、ひび割れた天井部は下に落ちて積もり、また天井が落ちる。長い年月をかけて少しずつ隙間が上昇してくると終には地表が陥没して上に泥がたまり、木が生えて何事もなかったようになるが、ここではまだ途中で山の斜面に突き当たり、横の部分が外界と接し、現在の洞窟になったように見える。造園にも用いられている鉄平石状のひび割れた平石がアーチ構造によってかろうじて崩落を免れており、山に降った雨雪の水分が石の隙間を滲み下り洞窟の天井に達し、雫となって落ちる。気温が下がる冬には地表で凍りつく。雫が多ければ凍る間もなく流れて地面が平らに凍ってしまうのだろうが水滴が流れる前に凍り付いているため下に散在している石が凍っていなかった。微妙な時間間隔で雫が落ちるのであろう。太さ 70 ミリの氷筍が 700 ミリ伸びるのに 12 月末から 1 月末まで 1 か月で出来るとすれば・・・中学生の数学の問題になりそうであるが、老人ボケの為そこは割愛。

雫が正しくその位置に落ちるのは天井を見れば解るとおり割れた岩石の隙間やとがった角の決まった位置から落ちるのでその場所で氷筍が育つのはしごく当然の事だろう。色々な条件が偶然に重なり合わなければこのような事にならず誠にめずらしき事象である。尻の重い偏屈爺をスノーシュー付で誘い出してくれたリーダーに感謝。夢中でここまで来てしまったものの帰り支度をしながら来た経路を見下ろすと何と急斜面の事か、履きなれないスノーシューでピッケルも持たず降りられるのか心配したがスリップには意外に強く、シッカリと軸足に重心をかけるとうまくいった。

帰り道、ウロだけ残る沢グルミの根株を案内された。枯れてから 100 年はたつであろう、樹齢 300 年以上ならば秀吉や家康が吸っていた同じ空気を呼吸して育ったのだろう。古木に畏敬の念を表す。下り 1 時間 30 分、合計 4 時間の山旅でした。

翌 2 月 23 日 朝起きると雨が降っている。天気予報は午前中雨のようだ。リーダーの判断で、雨呼山登山口はいくらか標高が高いので雪の可能性あり、雪なら決行、雨なら退却とのこと。

ちょうどその頃、水上のとある神社で雨呼山の大神が呼び出され打ち合わせを行っていた・・・かどうかは定かではない、が、思うに「これ大神殿、今般 6 名の客が来るようだが雨なら行かないなどと申しておるぞ」「はッ、本日は午前中雨を呼んでありますが・・・」「このところ観光客が少なく財政の・・・云々、客の印象が云々・・・どうにか成らぬのか」「しかし、最近気象庁が予報を守れとうるさくて・・・」「ではこうせい、客が到着寸前まで雨を呼んでおき、着いたらすぐに雨に帰ってもらいなさい」

何も知らないシリウスのメンバーが登山口に着くと雨はやみ、雲は薄くなって、高所を飛んでいる飛行機雲が透けて見えた。行程 500 メートル、30 分位で頂上着。360 度の展望に大満足し合計 1 時間のスノーシュー山行を無事に終了しました。



(登山口・寺山峠の標識 彫刻は雨を呼ぶ大神の龍)



(雨呼山頂 右後方の集落は関ヶ原集落)



(急な斜面を下山する)

「会員の山行リスト」に戻るには 画面最上部左端の 戻るボタン ← で 戻って下さい